

CASBEE® 名古屋

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価指針2016年版、名古屋市環境総合性能評価マニュアル2016

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンスロジエ泉一丁目(627)	階数	地上15F
建設地	名古屋市東区泉一丁目627番	構造	RC造
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	70人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2025年9月10日
敷地面積	573 m ²	作成者	
建築面積	293 m ²	確認日	2025年9月10日
延床面積	3,676 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 1.1 ★★★★☆					
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B: ★★★★☆ B+: ★★★★☆ C: ★☆	BEE = 1.1	30%: ★★★☆☆☆ 60%: ★★★☆☆ 80%: ★★★☆ 100%: ★☆ 100%超: ☆	標準計算	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
	100	100	①参照値 100%	Q1 室内環境	LR1 エネルギー
3.0 1.5 BEE=1.0	3.0 1.5 BEE=1.0	②建築物の取組み 93%	3 2 1	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
0 50 100	0 50 100	③上記+②以外の オンライン手法 93%	4 3 2 1		
環境負荷 L	環境負荷 G	④上記+ オフサイト手法 93%	92		
0 50 100	0 50 100		(kg-CO ₂ /年·m ²)		
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです。					

2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 2.7	
Q 環境品質		Q のスコア = 2.7	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	Q3 のスコア = 2.1
Q1のスコア = 3.1	Q2のスコア = 2.8	Q3のスコア = 2.1	
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性	生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ	

LR 環境負荷低減性		LR のスコア = 3.5	
LR1 エネルギー		LR3 敷地外環境	
LR1 のスコア = 4.4	LR2 資源・マテリアル	LR3 のスコア = 2.9	
LR1 のスコア = 4.4	LR2 のスコア = 2.8	LR3 のスコア = 2.9	
建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用	水資源保護 非再生材料の使用削減 污染物質回避	地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮	

3 設計上の配慮事項			
総合		その他	
名古屋市営地下鉄・久屋大通駅から徒歩10分ほどに位置する共同住宅。外皮性能、一次エネルギー消費量ともに高等級を目指しており入居者の快適性向上に努めている。		特になし	
Q1 室内環境		Q2 サービス性能	
F★★★★の建材を使用し入居者の健康に配慮している。		更新必要間隔が長い給排水管を使用している。	
Q3 室外環境 (敷地内)		Q3 のスコア = 2.1	
		可能な限り植栽を設け、良好な景観を形成している。	
LR1 エネルギー		LR2 資源・マテリアル	
全住戸外皮等級5をクリアしている。		分別が容易な建材を使用している。	
LR3 敷地外環境			
		周辺の風環境を把握している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)プレサンスロジエ泉一丁目(627)

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			4.1
LR1 エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生			1.3
Q3.1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会			2.8
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	2.7	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。